

連合東北ブロック 西日本豪雨災害支援ボランティア活動

微力ながらも、頂いた「優しさ」への恩返し

～ 連合福島は、第二次派遣団に、4名を派遣（9/14～9/17）～

連合東北ブロック「西日本豪雨災害支援ボランティア活動」の第二次派遣団として連合福島から4名（内局、J AM、ゴム連合、J P 労組より各1名）、連合東北ブロックで12名の参加者となった。

9月15日（土）、16日（日）の2日間にわたり、土砂災害の被災家屋の床下掃除を行った。はじめは雑巾で拭き掃除をしていたが、ことのほか床下の乾燥も早いことから水をまいてデッキブラシで磨き、ふきあげる作業手順へと変更した。初日は雨模様であったため、スタートが当初予定より1時間ほど遅れたが、2日目は晴天に恵まれ、9時15分から作業を開始した。両日とも13時30分までには作業を終え、14時までに退去の手続きを済ませた。

ボランティアセンターによると平日は30人程度のボランティアに止まるが、この日は3連休の晴天ということもあり数百名の参加を得たとのことで、多くの参加者は田畑の土砂あげ作業に従事していた。発災から2カ月以上経過してのボランティア活動となったが、現地ではボランティアが減少傾向にあり、かえって時期的にも意義のある取り組みになったと思われる。

参加者からは、「ボランティアの支援が無くては前に進まないことを実感。まだ手をつけられないお宅があり、復興にはまだ時間がかかると感じた」「家屋を被災前の姿に戻すためには必要不可欠な作業であると感じ、被災状況がいかに酷いものであったかということに改めて痛感した」「東日本大震災で、たくさんの方々から頂いた「優しさ」の恩返しを微力ながら返すことができた」「今年は災害が多発しており、過去の災害は風化しやすく、豪雨災害ボランティアは減少している。最後まで支援や応援が必要であることを実感した」「お金や物による支援も必要だが、被災地に直接足を運び、勇気づけることも大切なことと実感した」の声が寄せられた。



連合東北ブロック 第二陣の皆さん（12名）



左より、受付場所・天王サテライト、現地責任者からの作業指示、”スーパーボランティア”尾島さんに出会う



作業状況・床下清掃作業